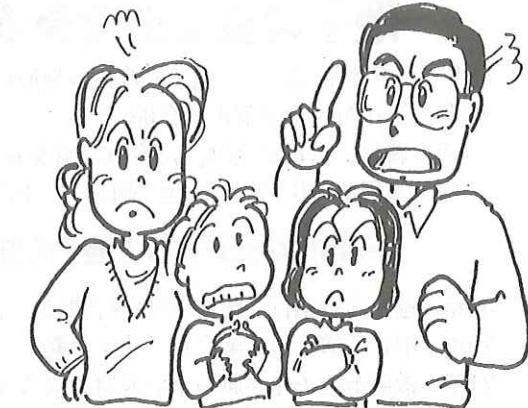


市民市長議会 いっしょに国が押し付ける 池子米軍住宅の追加建設に反対しましょう



一月二十一日、NHKニュースで「横浜市の根岸住宅地区返還に伴う米軍住宅約四〇〇戸を池子に移設する見通し」という報道がされ、市長と議会も断固反対を明らかにしました。逗子市民にとつては寝耳に水の話で、怒りと憤りの声があがっています。

54年以來、半世紀にわたる

逗子市民の悲願である池子の森全面返還

戦後、軍都横須賀市から分離独立。温暖な湘南の住宅都市として今日まで発展してきた逗子市にとって、一九五四年から逗子市の悲願として接收地返還運動に取り組んできました。ところが遊休化が取りざたされた七九年に逆に米軍住宅建設計画（一二〇〇戸）が浮上。突如持ち込まれた「計画」に市民世論と議会も反対と容認に二分した

議論が繰り返されました。九四年、八五四戸受け入れの三者合意五項目（国県・市）を締結。この「計画」に注ぎ込まれた「思いやり予算」（予算額概算）は約八百億円を超えていました。その後、市は総合的病院・公民館等の用地返還や運動施設の自由利用を求めて取り組んきました。

国と米軍の約束違反は、絶対認められない

合意して八年、米軍住宅が完成して四年、市と国との交渉の進展は、地域医療センター進入路の返還手続が進んだだけです。前市長と米軍司令官と「共同声明」で認められたはずの運動施設利用は、交流事業に限定して一部実施されたにとどまっています。又、元々は「カギを市に渡す」という約束は、果たされていません。

国から提示された病院用地（二万²m²）も、市長による事実上の断念が表明され、跡地利用も未定で返還のめどは、たっていません。このような現状から議会は、合意の履行といわゆる三十三

項目の実現を図ることを求める「意見書」を全会一致で可決しています。国と米軍は、横須賀基地の強化と空母交代（二〇〇八年）を睨み、新たな追加建設となる米軍本設小学校計画を持ち込み、二〇〇七年三月完成をめざし、県アセス手続を進めている状況であり、基地恒久化につながるものです。さらに、今回の米軍住宅の追加建設となれば合意のなし崩しとなります。

日本共産党は、報道後に市長と議長へ追加建設に反対するように申し入れ、市長と議会も断固反対することを明らかしました。

本設小学校の追加建設を容認すれば、

次から次へ新たな計画が浮上？

市長は、「基地内の子女が通う学校は恒久化につながらない」として県アセス手続を認め、「本設小学校計画」という追加建設を事実上容認する姿勢です。

結果として移設の計画や新たな住宅建設計画を呼び込むものとなっているのではなでしようか。

国は、米軍住宅計画の県アセス公聴会などでも「小学校は必要ない」と説明し、住宅の追加建設もないことを約束してきました。しかし、今回、防衛施設局長官は住宅不足から米軍からの

話しあは聞かなければならぬとして、米軍に対し理解する姿勢を示し、テープルに載せることを示唆しました。逗子市民の池子の森への思いや苦渋の選択を強いられた思いには、心を寄せない冷たい姿勢です。

市民のみなさん、これから市長、議会とともに強固な反対の意思を持つて、国と米軍に対し、追加建設計画の撤回と合意の履行、池子の森の全面返還を粘り強く求めていきましょう。

